

都市公園における医学分野と連携した新たな利活用可能性調査

<実証A>

密情報提供サービスに関する実証実験

業務内容説明・進捗報告

都市公園における、密集度の計測し利用者へ情報提供するための新たなサービス導入と、先進技術を活用した医学・健康分野のサービス導入に向け、以下の2つの実証実験を行います。



- ① 実証実験候補となる公園の特徴や利用状況を整理し、実証実験対象公園と実験場所を選定。
- ② 実証実験毎に、選定した場所での実証実験計画を立案。具体的には、必要となる既存技術／システムの適用について長所短所を整理し、各手法の適用可能性を明らかにし、実証実験の進め方と検証の方法を提案。

実証実験の進め方

既存技術やシステムの利用想定、収集データの種類、実験期間、被験者数や募集方法、個人情報の取扱、データベース構築などを検討。

検証方法

データの収集・分析に関する項目やアンケート調査項目などを検討。

人流赤外線センサー「Sign TYPE-B」 (SENSORS&WORKS社)

電池駆動可能なセンサによりプライバシー保護をしながら、移動方向、滞留などを検知し、リアルタイムに表示可能なシステム。

屋内外問わず広域ネットワークで使用が可能。

軽量、再構築、増設が容易、低施工コストで迅速な実験が可能。

Sign



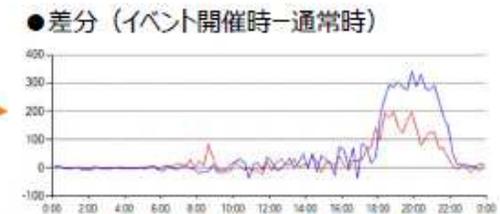
赤外線センサ



人流プラットフォーム



解析とソリューション



イベント波及効果解析例

例：新沢千塚古墳群公園

特に密集が想定される屋内外それぞれ1か所ずつを対象に、センサを用いて密集度を計測します。

